



弓削高等学校

<https://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>


弓削高校の活動を御存知ですか？

弓削高

新しい部活作ったってよ！

弓削高校では4月から新しい部活動を立ち上げました。その名も「起業部」です。現在部員は1年生2名、2年生3名の計5名です。以下は2年生中根綾花さんと1年生手塚菜結子さんの意気込みです。

『地域のために私たちが出来ることを一つ一つ取り組んでいきます！お願いされたことも自分たちで創り上げるプロジェクトも全力で取り組みます!! (中根)』

『何か役に立てることがないかと思い入部しました。そのため、自発的にさまざまなことに取り組んでいきたいです。(手塚)』

塚)』



(活動の様子。お店に置く座布団を不要なTシャツを用いて作っています。)

弓削高校起業部はクリエイティブかつアクティブに活動していきます！

What is 弓削高 like?

(弓削高はどんな所ですか?)

上島町唯一の県立高校である弓削高等学校。現在は新型コロナウイルスの影響で、残念ながら

ら学校生活を地域の方々に見ていただける機会を設けることができません。しかし、弓削高校のホームページをご覧くださいと、弓削高校がどんな所なのかがわかります。日々の活動だけでなく、運動会や文化祭などの学校行事の様子も見ることができます。ぜひ一度弓削高校のホームページをご覧ください。

島親募集！

チームで休日に食事等の面倒を見ていただける皆さまを募集します

連絡先 ☎ 77-2021
弓削高校 教頭 渡邊



弓削商船高等専門学校

<https://www.yuge.ac.jp/>


新入生145名を迎え弓削商船高専発進！

令和3年度入学式を挙行

4月6日(火)、令和3年度入学式を挙行しました。本科入学生132名、留学生2名、専攻科入学生11名の計145名の学生が入学しました。



今年度は入学生、在校生総代、保護者および教職員のみの出席とし、座席の間隔を空けるなど、新型コロナウイルス感染予防対策をとった上で式典を挙行しました。入学生の本校での新たな生活が始まります。

商船学科1年生が弓削丸初実習

コロナ禍でクラスを半数に分け、23名が高井神島南の沖を周回する日帰りの航海実習を行いました。

学生は実習で、船の操船に使用する号令と、海図に船の位置を記載する課業、機関室の機器や甲板設備の説明を受け、真剣な表情で話を聞きメモをしていました。学生達はこれから5年半をかけ、社会で活躍できる立派な船員へと育っていきます。



高井神島で清掃ボランティア



4月15日(木)、情報工学科2年生40名が航海実習の一環として、高井神島の海岸清掃のボランティア活動を行いました。

実習船「はまかぜ」で高井神島へ移動し、海岸のごみ拾いを約1時間行いました。回収したごみは80kgほどになり、住民の方からも「海岸の白いごみがなくなっている」と感謝のお言葉もいただきました。

かみじま郷土話 7

身近にある石造物



▲ 畑に放置された五輪塔の一部

皆さんは石造物というものを見たことがあるでしょうか。私たちのまちには、お寺や墓地、畑など、いたるところに石造物を見ることができます。

上島町に住む人々にとって馴染み深い島四国のお堂などにも、石造物が安置されていたりもします。石造物には、五輪塔(ごりんとう)、宝篋印塔(ほうきょういんとう)、板碑(いたび)、層塔(そうとう)などの種類があり、いずれも塔の形を模しているのが特徴

です。特に五輪塔や宝篋印塔は、墓塔や供養塔として造立されるようになり、中世には日本全国に分布したことから、石造物の代表的な存在となっています。

弓削島庄総合調査では、弓削島内にある石造物について調査を行いました。ほとんどは残欠ではありますが、113点の石造物の部材を見つけることができました。石材の調査により、15世紀初頭までに東泉寺や願成寺など弓削島の北部を中心に、松山方面や広島県南部の石造物が搬入され造立されていたようです。15世紀中頃になると、石造物の造立は島全体におよび、香川県の西部や瀬戸内海の沿岸地域から搬入されたものもみられます。

石造物といえば、上島町からほど近い広島県尾道市の存在を欠か

すことはできません。尾道では、石造物の素材となる良質な花崗岩を産出し、また石細工を生業とした多数の尾道石工を輩出しました。尾道石工が制作した石造物は、尾道水道を通して遠隔地まで運ばれました。上島町においても岩城八幡神社の鳥居や、弓削神社の獅子狛犬にも尾道石工の銘をみることができます。

皆さんの身近にも石造物はあるかもしれません。もし見つけたら私に教えて下さい。



教育課 曾根 大地

島おこし協力隊活動報告(公営塾) 「ゆめしま未来塾 新体制！」

上島町の皆さま、はじめまして。今年度から、ゆめしま未来塾の講師として着任しました品川温子と申します。前職では、橋梁設計に携わっていましたので、上島町に来て建設途中の斜張橋を間近に見ることができ、大変嬉しく思っています。来年の竣工が、今から待ち遠しいところです。塾では、今まで培ってきた経験を生かし、理系の講師として、頑張らせて頂きます！

ゆめしま未来塾全体の動きはというと、4月に入り、続々と入塾希望の新1年生が、顔を覗かせてくれています。中には、以前に姉が公営塾で成績が上がったから、という理由で来てくれる生徒がおり、前年度までの講師陣が作り上げた成果の一つであると感じまし

たし、是非とも、その期待に答えられるよう、サポートしていかなければと身の引き締まる思いでいます。振り返ると、昨年のこの時期はコロナ禍の中、従来どおりの授業が行えず初の試みを求められることが多かったかも知れません。1年経ってもその状況はままならず、イベントひとつにしても慎重な対応が必要とされます。私個人としては、生徒が時代や状況を理由に何かを諦めることが無いよう、常に工夫を凝らす努力をしていきたいと思ひます。

今年度から私を含め3名が新たに着任し、新体制となったゆめしま未来塾。今まで続けてきたものを軸としつつも、変わりゆく時代に柔軟に対応すべきであることを念頭に置き、今後の活動に励ん

でいきたいと思っております。生徒とともに我々も成長できるよう、暖かい目で見守って頂けたら幸いです。どうぞよろしくお願い致します。



公営塾 品川 温子